

① 球磨川沿岸道路の貫通——国道二一九号線（熊本宮崎線）の八代市から人吉市までは、球磨川の溪谷をぬり沿岸道路になっている。八代市附近と人吉市以東の人吉盆地は比較的早く改良工事が施されていたが、中間部の球磨村I区は、そのほとんどが急峻な溪谷地形になっているため、最近まで、幅員の狭い曲折の多い原道の状態であった。このため、三九年度から本格的な改良に着手し、三九年度は約三億円、四〇年度は約四億円を投入して、拡幅、付替え工事などを施工してきたが、ことは、さらに五億円で上の事業費がついて、沿岸道路が貫通する見込みである。

現状では、海岸地帯と人吉球磨盆地を結ぶ交通機関は国鉄肥薩線が主で、半ば陸の孤島といった状態であるが、今後は沿岸道路の貫通によって、観光、林業、織物業などの各種の産業に活気をよぶことになろう。

② 球磨南部土地改良事業——球磨川上流の水田に建設された市房多目的ダムから、球磨南部一帯に利水する土地改良事業は、昭和三年に着手して以来、一〇年の歳月をかけて施工されてきたが、全体計画約六億五、〇〇〇万円に対し、四〇年度で約五億円の事業を終り、ことは仕上げの段階に入る。

この事業は水田二、七五二畝、畑一、〇〇六畝に給水する幹線水路事業で、取入れ樋門のほか幸野溝一万七、二八三畝、百太郎溝一万四、三二〇畝の改修新設が行なわれている。また、同時に、全体計画約一億九、〇〇〇万円で、球磨南部開拓地改良事業が施工されている。これらの完成によって、関係地帯の農業の安定性が高まり、畑地帯では、畑地かんがいによる飼料作物の増産で、酪農の規模が拡大されるであろう。

B 群

① 八代臨海工業地帯の整備——不知火地区新産都市の中核として、八代臨海工業地帯の整備が精力的にすすめられることになろう。それは、次に述べる三つの基盤整備事業で構成されている。

八代臨海工業用地造成——十条製紙、興国人綱、日本セメント、三葉オーシャンなど、八代市に立地している既存の大企業群のほかに、新たに、臨海性の企業群を誘致して、この地区の工業生産力を高める基地にするため、八代臨海工業用地造成の事業は、本流の流域水田地帯の農業用水を確保するとともに、溜池がかりの水不足水田地帯に補給水を導入し、さらに、宇土半島南岸などの果樹園地帯に、かんがい用水を供給する構想になっている。

③ 水川総合開発——水川上流の泉村和小路地点に建設する県営水川ダムは、この度実施設計調査を完了し、四二年度から、ダム本体の建設にかかる見通しになっている。

このダムは、水川の洪水被害を防止するほか、水川下流の水田一、〇〇〇畝と果樹園二〇〇畝に農業用水を導き、さらに流域市町村の人口四万人に上水道を給水し、あわせて、約八、〇〇〇基の発電を行なう多目的ダムとして利用されることになっている。順調にゆけば、ダムは総工費一億四、〇〇〇万円で四四年に完成し、県営水川土地改良事業は全体計画約四億円で四六年に、また水川上水道は四五年に、それぞれ竣工することになろう。ダム建設を契機にして、釈加院、二本杉、五ヶ荘など泉村秘境の観光開発も促進されることになろう。

④ 球磨川、川辺川総合開発——球磨川も、ことしから一級河川に指定され、従来の直轄改修事業が促進されるほか、連年大災害を発生している川辺川の治水対策が検討され、川辺川ダムの直轄調査が行なわれることになった。

球磨川水系は、昭和三八年か四〇年ま

地の造成事業がはじまる、この事業は、四〇年度に五億七、二三七万円で、県が農林省から買収した臨海工業用地約七万坪を、四四年までに、全体計画約二六億円で、平均潮位十四・五尺の高さまで埋立整地して、道路、排水溝など付帯施設も整備する事業であって造成した用地は費用に見合う価格で、誘致した企業に譲りわたすことになる。

表3 城南地域の基盤整備 単位：千円

A 群			B 群		
事業名	完成年	全体事業費	事業名	期間	全体事業費
国道熊本宮崎線	43	3,431,000	八代臨海工業地帯整備	40~	2,559,113
同線球磨村工区	41		臨海工業用地造成	41~	543,000
球磨南部土地改良	42	646,300	石油配分基地造成	41~	543,000
球磨南部開拓地改良	41	188,871	八代工業用水道	40~	3,528,000
天君防災ダム	42	1,059,000	八代港整備	40~44	3,758,000
			緑川総合開発	39~43	8,350,000
			緑川ダム	39~43	8,350,000
			緑川土地改良	41~	10,578,000
			水川総合開発	40~43	1,140,000
			水川土地改良	41~	400,000
			水川上水道	41~	430,000
			球磨川総合開発	40~	
			川辺川総合開発	40~	
			八代平野土地改良	39~45	3,730,000

新産都市建設の基本計画では、この臨海工業用地に、製紙、木材工業、食品工業などを誘致することになっているが、県の誘致努力によって、企業側の動きもみられるようになってきている。

また、この用地の一部に、石油配分基地を建設する計画がすすめられており、本決りになれば、ことしから着手することになる。

で、三年続けて大洪水に見舞われ、現在の計画洪水量（八代地点）五、〇〇〇トをはるかに上まわる六、〇〇〇ト以上の出水をみているが、川辺川合流点から上流の本流筋は、市房ダムの洪水調節によって、被害は最小限ですんでいるのに対して、五木村、相良村などの川辺川筋と、合流点から下流の人吉市の一部、坂本村、八代市の被害が甚大で、球磨川の治水は、川辺川を治めなければ解決しないことがはっきりしている。このため、前述の直轄調査では、従来の相良ダム構想などの資料を再検討しながら、ダム地点、ダムの数と規模などについて調査がすすめられるものと思われる。

また、川辺川ダムから農業用水を利水できれば、飼料作物と水稲の畑作で、生産力の高い豊かな農業地帯として開発できる。川辺川土地改良事業の構想についても、平行してすすめるよう期待されている。

天草地域の夢は、天草架橋をつながら観光の島建設、みかん類の果樹農業の振興、沿岸、近海漁業および養殖漁業振興の三点にしよう。この夢を実現するため、国、県、地元三者が一体となった基盤整備を行なっており、夢はほどなく現実のものになろうとしている。（表4）

この事業は、国営から県営までの総事業費三七億三、〇〇〇万円の計画で、四五年に完成することになっており、その結果、用排水の分離が行なわれ八代平野の宿命である湿田が解消して、水稲の生産性が高められるほか、暖地そ、やい草の栽培も改善されて、特色ある暖地農業地帯として発展することになろう。

天草地域の開発

A 群

① 天草架橋の開通——天草架橋は、三角町から大矢野島を経て上島の松島町まで、五つの架橋で結ぶ夢のかけ橋であった。道路公団が三九年に着手し、総工費二八億円（うち公団分約二億三億）をかけたことしの十月に開通することにな

このダムから利水する国営緑川土地改良事業も、四一年度直轄調査地区に採択